

資料紹介

日野富三郎関係資料について —牧野富太郎と日野富三郎の交流を中心として—

安永純子※

はじめに

当館において、令和五年一〇月一四日（土）～令和六年一月一四日（日）に常設展示室4でコーナー展「牧野富太郎と日野富三郎の交流について」を開催した。展示では、日本の植物学の父とよばれる牧野富太郎が愛媛県出身で植物学の研究者日野富三郎に宛てた書簡・葉書を中心に二人の交流について紹介した。

日野富三郎関係資料の発見の経緯については、以下のとおりである。岩谷口村（砥部町）日野家文書は、愛媛県生活文化部生涯学習課に歴史文化博物館係が設置され、当館の開設備が本格化した平成三（一九九一）に日野家より寄託されている^①。その後、平成二九年に日野家から牧野富太郎の書簡等が発見されたとの連絡があり、新たに出て来た日野家文書と日野富三郎関係資料の一部の寄託を受けて調査の後、資料を借用して展示を行った。

資料の内容は、牧野富太郎書簡二点・葉書二点・書（写真パネル）一点、日野富三郎の植物画一点、牧野富太郎と日野富三郎の写真（写真パネル）一点、第二回植物採集及び実地指導会写真（写真パネル）一点、合計八点である。

牧野は全国各地の植物学者や地域の植物愛好家等と幅広い交流を持ち、多くの書簡・葉書・植物標本等のやりとりをしている。令和四年に牧野の生誕一六〇年を迎え、翌年NHKの連続テレビ小説「らんまん」の主人公に取り上げられたため、全国各地で牧野に関する展覧会が開催された。近年における先行研究では、田中純子氏や山本薫氏・藤井明広氏共著等の報告がある。田中純子氏は、牧野の生涯最大の業績『牧野日本植物図鑑』の編集に参加したことで知られる向坂道治との交流について二人が遺り取りしした書簡を中心に紹介している^②。また、山本薫氏・藤井明広氏は、令和四年度企画展「牧野富太郎がみつ

めた植物—植物標本が語るもの—」の展示から牧野の手紙一通を取り上げ、横須賀市博物館初代博物館学担当・大谷茂学芸員と牧野の交流の結果、地域の植物研究に寄与したことを紹介している^③。これまで、牧野と日野との交流については知られていないため、本稿において日野の活動を明らかにし、牧野の書簡を中心に二人の交流について資料紹介をすることとしたい。

一 日野富三郎の活動について

（1）日野富三郎の経歴

日野富三郎は江戸時代に岩谷口村の庄屋を代々務めた日野家の出身で、明治一六（一八八三）年に日野喜一郎の三男として生まれた。松山中学から岡山の第六高等学校に進学し、同三九年に東京帝国大学農科大学農学科に入学した。そして、在学中に岐阜から取り寄せた富有柿の苗数本を持って砥部に帰省し、次兄の陽二郎が植えたことが砥部地方における富有柿栽培の始まりといわれている^④。

同四二年、日野は東京帝国大学農科大学を卒業し、いったん鹿児島県立鹿屋農学校教諭となるが、大正元（一九一二）年に東京に戻り、東京帝国大学農科大学の副手を務めた。その間、同大学附近の駒場等で植物採集等を行っているが^⑤、翌年には同大学教授大沼宏平と一緒に上州赤城山（群馬県）で植物を採集し、同教授から植物の同定の指導を受けている^⑥。その後、『農学会報』に海外の植物学の論文を紹介した^⑦。

そして、大正五（一九一六）年に日野は再び鹿児島県立鹿屋農学校に戻り、昭和七（一九三二）年まで教諭を勤め、その後は愛媛に帰郷して家の経営をしながら植物学の研究に携わった。昭和二七年に病没した。

(2) 田代善太郎との交流

大正五年、再び鹿児島県立鹿屋農学校に戻った日野は、博物学の教鞭を取りながら、田代善太郎に師事して交流を深めた。田代は牧野を師事する植物学者で、熊本師範学校や長崎高等女学校で教員を務める傍ら、九州各地で牧野を招いて植物採集会を開いていた。⁹ 同二年に鹿児島県の加治木中学校に赴任した後、博物学会の活動の一環として鹿児島県に博物館設置の必要を提案した。¹⁰ そして、将来の博物館や学校の博物標本の充実化を図るため、県内の小・中学校教員や博物学会員を動員して植物採集を行った。¹¹ 翌年、一月の桜島噴火関係資料保存展示のため鹿児島県立図書館内に博物部常任委員会が発足される。¹² そこで、日野は同五年に鹿児島県立図書館博物部臨時委員の嘱託を兼任して桜島（鹿児島県）で植物採集を行い（表1 番号1）、翌年三月には博物採集を目的として奄美大島（鹿児島県）に出張した。¹³ 日野が田代指導の植物採集会に初めて参加したのは、同七年の霧島採集会である。これらで採集した植物標本の一部が鹿児島県立図書館に収められ、現在の鹿児島県立博物館に受け継がれていると推測される（表1 番号11～44・47～49）。

同八年、史跡名勝天然記念物保存法が制定され、翌年に田代が鹿児島県より天然記念物調査常任委員の嘱託及び内務省より天然記念物調査の嘱託を任じられると、田代は日野に対して種子島や野間半島・穎娃・指宿・山川地方（鹿児島県）における天然記念物調査の写真撮影を依頼した。¹⁴ また、田代が同一年に屋久島調査を実施した際には、日野と一緒に屋久島国有林施設計画概要書から天然記念物調査に必要な箇所を写しとっている。同一年に実施した高山・枕崎・高隈山調査にも日野は参加し、鹿屋近辺の調査の際には田代を自宅に泊めた。¹⁵

そして、天然記念物調査を終えた田代は、同一四年に京都帝国大学の嘱託となつて九州を去るが、一方で日野は日本植物学会に入会している。¹⁶ その後も田代と日野の交流は続き、同一五年、田代が汎太平洋学術会議の見学旅行団の案内書「火山と植物」を作るために桜島の調査を行った時に、日野は同行して桜島頂上付近で写真を二枚撮影した。¹⁷ こうして、京都に拠点を移した田代は、昭

和天皇の行幸で植物・動物標本の天覧が実施される時に各地で説明役を求められるようになる。昭和二（一九二七）年、昭和天皇が海軍大演習のため奄美大島に行幸された際に植物標本等の天覧があった。その事前の準備のため田代が鹿児島高等農林学校を訪れて打ち合わせを行った際に、同校の河越重紀教授と日野が参加している。¹⁸ 日野が奄美大島で撮影したアマミクロウサギ、オットングエル、アマミトゲネズミ、ハブ等の写真が日野家に残っており、事前準備に活用された可能性がある。その後、田代は御召艦上で植物標本・写真等を示しながら昭和天皇に暖地性植物の分布について説明した。¹⁹

また、日野は田代が四国と九州で採集会を開催した際には同行したい意向を伝えており、鹿児島県内で採集した植物の同定の依頼を行っている。²⁰ 現在、京都大学総合博物館と国立科学博物館に所蔵されている植物標本（表1 番号45・46）は、いずれも日野が田代を通じて同定を行うため送ったものと推測される。²¹

(3) 愛媛や鹿児島等の植物学者たちとの交流

日野が鹿児島県内で交流を持った人物としては、鹿児島高等農林学校植物学教室の教授河越重紀や同校教授内藤喬が日野家の資料から確認される。²² 経緯が不明ではあるが、大正六（一九一七）年四月に種子島、同七年三月には沖縄県名護公園内等で日野が採集を行った植物標本が同校に収められ、現在の鹿児島大学総合研究博物館に受け継がれている（表1 番号2～10・51）。

愛媛県関係の植物学者との交流については、まず同九年に松山高専学校植物学教室の教授神谷辰三郎から葉書が日野に送られていることがあげられる。そこには、島津（島津製作所か）の植物標本等について日野から神谷に相談をもちかけたことに対する返事が書かれている。²³

また、田代を通じて八木繁一とも交流を持っている。田代は、これまで愛媛県各地で採集会を開き、愛媛の植物学者を指導し、植物誌の序文も寄稿していた。²⁴ 昭和七（一九三二）年に日野は鹿児島県立鹿屋農学校を辞して愛媛に帰郷したが、四国及び九州においての活動を継続している。同年、田代が愛媛県師範学校を訪れた際に、同校教諭で牧野と田代に師事し、後に愛媛の植物学の

父と呼ばれるようになった八木繁一の案内で日野の植物標本を閲覧している。おそらく、同校の郷土館に動植物標本等が展示されて二年目を迎えたので訪ねたと思われる。その夜、田代は八木の自宅に宿泊し、再び日野の標本を閲覧している。⁽²⁸⁾このことから、日野は八木と交流があり、郷土館に日野の標本が収められていた可能性があるが、戦争によって愛媛県師範学校が焼けてしまったため、日野の植物標本は失われたと推測される。

翌年、久住山（大分県）で田代を講師に迎え、植物採集会及び実地指導会が行われた（資料8）。この時に、日野と一緒に参加している山下幸平は佐賀県出身で、九州の小学校の教諭を務めた後に愛媛県立大洲中学校に転任し、牧野や田代等から指導を受け、『愛媛県植物便覧』⁽²⁹⁾等の著書を発行して愛媛の植物学に貢献している。同一年の屋久島採集会では、申込の受付を山下が行い、田代が講師をつとめ、日野が写真撮影を行った。⁽³⁰⁾また、山下から日野に送った写真が入っていたと思われる封筒が残っており、二人の間に交流があったことが示される。資料8については後述する。

なお、愛媛に活動の拠点を移した日野は、宇和島の博物学者・今泉虎雄とも交流があり、同九年に田代の指導のもとに行われた宮崎県青井岳等調査⁽³²⁾と同一年に牧野の指導で行われた種子島調査に一緒に参加している。同一年の種子島調査については、後述する。

最後に、九州の植物学者としては、鹿児島時代から交流していた上妻博之があげられる。上妻は田代の教え子で、牧野からも師事を受け、九州学院の博物学教師を勤める傍らで「熊本記念植物採集会」を発足させるなど、植物学者及び歴史学者として活躍した。先述の久住山の採集会をはじめとした数々の田代の採集会に上妻は参加し、日野ともたびたび行動を共にしている。時には、田代と上妻が熊本で植物採集会を行った時に日野が参加し、上妻から日野に阿蘇山麓等の植生に関する写真を送付されるなど、親しく交流していた。⁽³³⁾

（4）牧野富太郎との交流

日野と牧野の接点を示す最初の資料は昭和三（一九二八）年の牧野富太郎書（資料1）である。昭和初期に国有天然林調査が全国の営林局で実施されており、牧野は各地の営林局から招聘され、指導を行っていた。⁽³⁶⁾そこで、同年九州を統括する熊本営林局による国有林調査に招かれた牧野は、熊本で調査を終えてから鹿児島に入り、一〇月二七日～十一月五日まで鹿児島で調査を行った。⁽³⁸⁾ちょうど日野もこの頃に鹿児島県内の国有林調査に協力して熊本営林局や内之浦営林署の指導を行っていたため、牧野の調査に同行したものと思われる。この時には、日野は高山の城山に自生しているヤッコウソウ等を案内し、同じく高山でヤシロランを二本採集して牧野に差し上げている。⁽⁴¹⁾このことが縁となり、翌年、牧野にヨウラクツツジの同定の依頼をしたと思われる、日野の植物標本が現在の東京都立大学牧野標本館に収められている（表1 番号50）。

そして、同七年に牧野が宮崎南部と青島（宮崎県）を調査した際に、青島に行く途中の車で日野と同席し、青島の調査を終えると宮崎駅で日野と別れた。この時には国有林を通じて日野と交流のある熊本営林局の荒川潔も宮崎南部で合流している。その後、鹿児島入りをした牧野を日野と親交のある内藤喬や永井亀彦が出迎えた。⁽⁴³⁾牧野の訪れる場所の先々には植物学者のつながりの深さが伺える。

また、日野は牧野が指導する高知の植物採集会に参加している。同九年八月、牧野は国有林調査（五〇一〇日に実施）のため高知営林局に招聘された際に、同月一日から四日にかけて「植物採集研究会」を指導した。⁽⁴⁴⁾その時の会員名簿に日野の名前が記されている。⁽⁴⁵⁾

なお、同十三年八月四～九日に牧野の指導による種子島調査が行われ、日野は今泉虎雄と宇和島を経由して参加した。⁽⁴⁶⁾牧野の書簡（資料6）においても、この時に日野が参加をしたことを振り返っており、一緒に採集したことをなつかしんでいる。日野宛の牧野の書簡や葉書については後述する。

二 資料紹介

(1) 資料1 「牧野富太郎書（昭和三年一月五日付）」について

牧野富太郎が九州を統括する熊本営林局による国有林調査に招かれた際に、熊本から鹿児島に入り、高山（鹿児島県）でヤッコウソウを採集したことについて昭和三（一九二八）年一月五日に揮毫した書。牧野が鹿児島市山下町（鹿児島市）の薩摩屋別館に宿泊した際に日野に書いて渡したと思われる。結網は牧野の号。縦一三五・〇×横三四・三cmで、資料の保存状態は良好である。日野の鞆に資料1を丸めて入れた状態のまま発見された。現在は、額装にしている。ヤッコウソウは、牧野が明治四二（一九〇九）年に命名し、二年後に新科を創設した植物であり、特別な思い入れもあったことから、我が子と再会した時のような嬉しい気持ちになったと記している。

(2) 資料2 「牧野富太郎と日野富三郎写真」について

資料2は、日野が撮影して現像したもので、縦四二×横五・九cm。資料の保存状態は良好。場所は不明であるが、牧野と日野たちの集合写真。後列の左から二番目が牧野で、同列の左から三番目が日野である。

(3) 資料3 「牧野富太郎葉書（昭和一四年八月二四日付）」について

資料3は縦一四二×横八・八cmの葉書。資料の保存状態は良好。概略は次のとおりである。牧野は植物方言の調査も行っており、そのため、日野に大隅地方の植物方言について問い合わせた葉書。「かうしうやく」という植物について、大隅地方では「へんちしば」という植物方言があると聞いたので、日野に「へんち」とは大隅の方言でどんな意味か尋ねている。

(4) 資料4 「牧野富太郎葉書（昭和一四年八月一日付）」について

資料4は、縦一四二×横八・八cmの葉書。資料の保存状態は良好。概略は次のとおりである。八月二四日付の葉書（資料3）に続いて、日野の返事に礼を述べ、「へんち」については方言ではなかったことを伝えている。そして、

一〇月頃に福岡県でダルマギクの採集と古処山（福岡県）のツゲ（天然記念物古処山ツゲ原始林）の調査を行いたいが、まだ確定をしていないため、もし、調査を行う場合には、日野に知らせると記している。

(5) 資料5 「牧野富太郎書簡（昭和一〇年九月二五日付）」について

資料5は、縦二四二×横一六・四cmで、便箋三枚に綴られている。資料の保存状態は良好。

概略は、次のとおりである。牧野は、最初に日野から葉書が送られたことと、日野から送られたビロウとソテツの原生林の写真について礼を述べている。そして、前月に日野が田代や上妻と熊本で植物採集を行ったことに触れ、愉快だった事でしょう、とねぎらっている。牧野も東北の奥地や加賀の白山（石川県・岐阜県）、越中の立山（富山県）、黒部溪谷（富山県）、六甲山（兵庫県）、丹後久美浜（京都府）に行ったことを述べ、立山を登れたのでかつて日野と登った高山へもまだ登れると書いている。立山は三〇〇m級、高山は九〇〇m級の山なので、健脚ぶりを親子ほど年の離れた年少の日野にアピールした。その後、牧野は広島文理科大学教授高木哲雄と話し合い、来年には汽船を一隻借りて小豆島から山口県の周防大島まで、瀬戸内海の島々の植物採集を行う計画があるので、実現した際には日野に対して参加を呼びかけている。

また、牧野にとって大隅南部は憧れの地なので、そのうち行くようにしたいと述べ、その時にはぜひ日野に同行したいと希望している。再度日野から送られたビロウとソテツの写真について話題とし、野生の状態がよく出ていることを喜んで厚く礼を述べた。

なお、牧野が発行した昭和一〇（一九三五年）年に出版した『牧野植物学全集』（第一巻）を読んだ日野に対して礼を述べ、それについては、誤植があるので注意してほしいことをお願いしている。

(6) 資料6「牧野富太郎書簡(昭和一四年八月二一日付)」について

資料6は、縦一四・二×横八・八cmの便箋二枚に綴られている。資料の保存状態は良好。

概略は次のとおりである。前年八月に種子島で日野と植物採集を行ったことを牧野は懐かしみ、今年も行きたかったが諸事情により断念したので、来年七月には種子島に行くことを希望している。今後の予定としては、今年一〇月頃に福岡県にダルマギクの採集に行きたいので、もし、予定が決まったら都合がつけば参加してほしい。ついでに秋月町(福岡県)へ行つて古処山へ登り、ツゲの林を調査したいと述べている。

(7) 資料7 日野富三郎の植物画について

資料7は、縦一五・二×横二二・八cmのスケッチ帳(八〇頁)に描かれている。明治三九(一九〇六)年頃、日野は大学在学中に岐阜から取り寄せた富有柿の苗数本を持って砥部に帰省し、次兄の陽二郎がその苗を植えたことが砥部地方の富有柿の始まりといわれている。本植物画は日野が果樹の研究の際に描いたもので、洪柿の一種の妙丹柿。また、日野は、よく牧野の話を娘に聞かせ、自分の絵と比較して「先生(牧野富太郎)のデッサンはもっと精密で綺麗だった」と語ったという。

(8) 資料8「第二回植物採集及び實地指導會」写真(昭和八年八月)

大分県の久住山で第二回植物採集及び實地指導會が行われた時の集合写真で、縦一一・四×横一六・二cm。講師には京都帝国大学田代善太郎が招かれ、大分営林署員や愛媛、九州各地から教員が集まつて行われた。その中には、日野と交流があった愛媛県立大洲中学校教諭山下幸平がいる。山下については、すでに一章(3)において紹介したが、大洲を中心として植物採集を行い、数々の植物誌を発行しており、『愛媛県植物便覧』は、愛媛の植物学の父・八木繁一『愛媛県植物誌』^④に続く研究成果と評価されている。また、熊本から田代の教え子で、日野とも親交の深い植物学者の上妻博之も参加している。日野は手前から

三列目の左端。田代は手前から二列目の左から五番目。山下は前から二列目の左から三番目。上妻は前から二列目の右から四番目。

おわりに

本稿において、コーナー展「牧野富太郎と日野富三郎の交流について」の展示資料として資料1～8を紹介した。

資料1では、これまで、『牧野富太郎植物採集行動録』^⑤によって鹿児島市内まで滞在していたことが知られていたが、高山まで足を伸ばしていたことがわかった。資料3・4では、牧野は植物方言の調査を行っており、その一環であったことが伺える。日野に尋ねた内容は植物方言ではなかったことを伝え、一方で福岡における植物採集会の計画が実施される際には参加を希望しており、日野に対して熱心に指導している様子が伝わる。

資料5・6では、牧野から日野へ懇切丁寧に指導しており、ユーモアを交えて親しみのある文章で書かれている。牧野が計画している植物採集会への参加を促し、文中から二人の信頼関係が伺える。

資料7では、日野は絵を描くことを学生の頃から得意としていたので、よく描けているが、日野は牧野の細密画の方がより精密だったことや、牧野を「先生」と呼んで思い出を娘に話し、日頃から尊敬の念を強く抱いていたという。

資料8からは、植物採集会には九州や愛媛から博物関係の教員や営林局の職員が集まり、九州においても植物同好会のブームがあったことが伺える。

このように、日野は、東京帝国大学農科大学を卒業後、牧野に師事し、田代から指導を受けながら九州や愛媛の植物学者と交流した。現在のところ、日野の植物標本は五一点(表1)確認でき、日野の活動の一端を知ることができる。また、資料1～8において、牧野は植物学への知識の普及を目的として植物採集会を行っており、植物研究を日野もまた牧野から指導を受けながら行っていたことがわかる。それらの活動から、牧野の植物学への情熱を日野もまた受け継いでいることが伺える。今後の課題としては、日野の残した東京帝国大学農

科大学時代の植物標本の整理と資料の整理を行う必要がある。本稿において、日野の活動が明らかになったことから、本資料が植物学において活用されることを期待したい。

※愛媛県歴史文化博物館 主任学芸員

謝辞

本稿の執筆にあたり、池田博、海老原淳、加藤英寿、金本直子、小林真吾、小松みち、鷹尾誠一郎、鷹尾秀隆、田金秀一郎、田中伸幸、永益英敏、橋越清一、日野さゆり、日野真成、日野長治、松井宏光、向平和、吉田広、吉富博之、愛媛県総合科学博物館、愛媛県立大洲高等学校、愛媛県立図書館、愛媛大学教育学部付属中学校、愛媛大学ミュージアム、大洲市立図書館、鹿児島県立鹿屋農業高等学校、鹿児島県立博物館、鹿児島大学総合研究博物館、京都大学総合博物館、国立科学博物館、国立国会図書館、西予市図書交流館、東京大学総合研究博物館、東京都立大学牧野標本館（敬称略、五十音順）には、資料の調査等のご協力やご助言をいただきました。その他ご協力いただいた方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。

注

- (1) 愛媛県歴史文化博物館編『愛媛県歴史文化博物館資料目録第五集 理正院文書・日野家文書目録』（愛媛県歴史文化博物館 一九九九年）九頁。
- (2) 田中純子「向坂道治と牧野富太郎の交流―二人の遣り取りした書簡から見える植物図鑑編纂の道のり―」（『やまとぐさ』第四号 高知県立牧野植物園 二〇二二年）。
- (3) 山本薫他「植物学者牧野富太郎博士からの手紙―当館初代植物学担当・大谷茂学芸員関係史料の紹介を中心に―」（『横須賀市博物館研究報告（人文科学）』第六八号 横須賀市自然・人文博物館 二〇二四年）。
- (4) 愛媛県生涯学習センター編『河川流域の生活文化（平成六年度地域文化調査報告書）』（愛媛県生涯学習センター 一九九五年）一〇八頁。
- (5) 市川大祐「農学部図書館所蔵卒業論文所在状況について」（『東京大学日本史学研究室紀要』第六号 二〇〇二年）一一四頁。日野は卒業論文として「白米ノ実験報告書」を提出している。
- (6) 「日野富三郎採集植物標本」（個人蔵・愛媛県歴史文化博物館保管「日野富三郎関係資料」）。新聞紙に駒場等の地名が書かれている。
- (7) 大正二年八月六日付「日野富三郎宛大谷宏平書簡」（個人蔵・愛媛県歴史文化博物館保管「日野富三郎関係資料」）。日野は大谷から植物の同定の指導を受けている。福島県植物誌編さん委員会編『福島県植物誌』（福島県植物誌編さん委員会 一九八七年）三頁によると、大谷は農科大学で植物の同定やドイツ語の教授をした。
- (8) 『農学会報』一五四号（農学会 一九一五年六月五日）四二四～四三〇頁。同一五五号（農学会 一九一五年七月五日）四九八～五〇〇頁。
- (9) 牧野富太郎「牧野富太郎自叙伝」（講談社 二〇二三年）七七頁。牧野は、「九州辺へは六年も続けて行ったこともある。」と回顧している。田中伸幸「牧野富太郎の植物学」（NHK出版 二〇二三年）一七七～一七九頁。牧野は全国規模の植物趣味の普及活動（布教活動に近い）によって同好会設立に協力し、その輪を広げることに邁進したので、田代にも指導している。田代晃二「田代善太郎日記（明治篇）（九州時代）」（創元社 一九六八年）（三）（八）頁に田代の略年譜について掲載されている。
- (10) 田代晃二「田代善太郎日記（大正篇）」（創元社 一九七二年）一五頁。
- (11) 前掲（10）（二二）・二七頁・四三・七六・七七頁。
- (12) 鹿児島県立博物館編『鹿児島県立博物館要覧』（鹿児島県立博物館 二〇二四年）二頁。
- (13) 「履歴書」（個人蔵「日野富三郎関係資料」）。
- (14) 大正六年三月一四日付「大島郡博物館標本採集ノ為メ出張に付打ち切り支給通知書」（個人蔵「日野富三郎関係資料」）。大島（鹿児島県奄美大島）出張旅費の件について、鹿児島県立図書館が打ち切り支給の形で出張を許可している。
- (15) 前掲（10）二一八・二四五頁。日野家に富三郎が使用していたカメラが残っており、所蔵者が日本カメラ博物館に問い合わせたところ、「エルネマン・ヘアク（ヘーグ）（15）」というドイツのメーカーのカメラと返答があった。

- (16) 前掲(10) 三三三・三七五・三七六・三八四頁。
- (17) 『植物学雑誌』 三九卷四六四号(日本植物学会 一九二五年) 二八七頁。
- (18) 前掲(10) 四三三頁。
- (19) 田代晃二『田代善太郎日記(昭和篇)』(創元社 一九七三年) 一八頁。
- (20) 個人蔵「日野富三郎関係資料」。
- (21) 前掲(19) 五二〇頁。
- (22) 昭和七年七月六日付「田代善太郎宛日野富三郎書簡」(京都大学総合博物館蔵「田代善太郎書簡等資料 愛媛県 書簡」)。
- (23) 六月二〇日付「田代善太郎宛日野富三郎書簡」(京都大学総合博物館蔵「田代善太郎書簡等資料 鹿児島県 書簡」)。
- (24) 前掲(10) 一八九頁。田代は恩師の根本完爾が行っている東京科学博物館植物室の腊葉充実に協力していたので、日野は根本を紹介された可能性がある。
- (25) 大正一〇年四月二二日付「日野富三郎宛河越重紀葉書」(個人蔵「日野富三郎関係資料」)では、日野が河越に対して奄美大島の植物調査を行った報告と質問に対する返答をしている。また、(昭和五)年二月三日付「日野富三郎宛熊本営林局荒川潔書簡(個人蔵「日野富三郎関係資料」)では、日野に対して、内藤喬教授の書物を持っていたら、貸与してほしい旨が記されている。
- (26) 大正九年六月二八日付「日野富三郎宛神谷辰三郎葉書」(個人蔵「日野富三郎関係資料」)。
- (27) 田代は、余吾一角『周桑郡植物誌』(余吾一角 一九二九年)や山下幸平『愛媛県植物便覧』(山下幸平 一九三六年)等の序文を書いている。
- (28) 前掲(19) 一九〇頁。
- (29) 前掲(27) 山下幸平『愛媛県植物便覧』(山下幸平 一九三六年)。
- (30) 前掲(19) 三三三～三三三頁。
- (31) 「日野富三郎宛山下幸平封筒」(個人蔵「日野富三郎関係資料」)。愛媛県大洲町肱川橋通の澤井肱水写真館製の封筒で、中は空。昭和八年七月二一～二三日付で写真八枚が入っていたことを封筒の表に記している。
- (32) 前掲(19) 二五七頁。
- (33) 山本正江他編『牧野富太郎植物採集行動録・昭和篇』(高知県立牧野植物園 二〇〇五年)。一二七頁。
- (34) 前掲(19) 二九七頁。
- (35) 昭和十一年二月一五日付「日野富三郎宛上妻博之書簡」(個人蔵「日野富三郎関係資料」)に阿蘇山麓等の植生に関する写真が同封されている。
- (36) 新山馨他「昭和初期の国有天然林調査書の発見」(『森林総合研究所研究報告』一九卷三号 森林総合研究所 二〇二〇年) 二七五頁。
- (37) 前掲(9) 田中伸幸『牧野富太郎の植物学』(NHK出版 二〇一三年) 一八六・一八七頁。
- (38) 前掲(33) 二二・二三頁。
- (39) 前掲(25)。(昭和五)年二月三日付「日野富三郎宛熊本営林局荒川潔書簡」(個人蔵「日野富三郎関係資料」)。(昭和五年八月一七日)消印「日野富三郎宛内之浦営林署榎田正勝書簡」(個人蔵「日野富三郎関係資料」)等。
- (40) 昭和三年一月一四日付「田代善太郎宛日野富三郎書簡」(京都大学総合博物館蔵「田代善太郎書簡等資料 鹿児島県 書簡」)。
- (41) 一月二五日付「田代善太郎宛日野富三郎葉書」(京都大学総合博物館蔵「田代善太郎書簡等資料 鹿児島県 書簡」)。昭和三年と推測される。
- (42) 荒川潔は、熊本営林局の技手で、『霧島山に於ける植物群落組成調査及び植生連續(遷移)に關する考察』(熊本営林局 一九三一年)等の著書がある。
- (43) 前掲(33) 五七頁。内藤喬については、前掲(25)のとおり。永井亀彦は鹿児島県立第一鹿児島中学校の教諭で、(昭和三年一〇月)二〇日付「日野富三郎宛永井亀彦書簡」(個人蔵「日野富三郎関係資料」)等がある。
- (44) 前掲(33) 七五頁には「土佐の会」と記されているが、『博物会報』第三号(高知博物学会 一九三五年)一四～一七頁に掲載されているタイトルが「昭和九年八月自一至四日 植物採集研究會参加會員名簿」となっているため、「植物採集研究会」が正式名称と思われる。
- (45) 會員名簿とは、「昭和九年八月自一至四日 植物採集研究會参加會員名簿」(『博物会報』第三号 高知博物学会 一九三五年)のこと。

(46) 前掲 (33) 一二七頁。

(47) 前掲 (33) 一二頁。

(48) 前掲 (19) 二九七頁。

(49) 八木繁一『愛媛県植物誌』(松山堂出版 一九二八年)。

(50) 前掲 (33)。

資料翻刻

資料1 牧野富太郎書 (昭和三年一月五日付)

名^(左) け 親 我か子に逢ひし 心地して

奴草をハ採りし 嬉しさ

昭和三年十一月五日、奴草を高山之山に採りて

牧野結網

資料3 牧野富太郎葉書 (昭和一四年八月二四日付)

【表】

愛媛縣、伊豫郡

砥部町、岩谷口、

日野 富三郎 様

八月廿四日

⑨ (東京市、板橋区、東大泉町、

五五七番地

牧野 富太郎

〔電話〕 石神井 (シヤクジキ) 一五〇番

※消印 (石神井 / 14・8・25 / 后〇―4)

※⑨ (□づ□債で御奉公)

【裏】

チヨット御尋ネ申上ゲマス。

今植物學界デ云ツテキルかうしうや

くハ薩州デハ いそやまたけト云ヒ

大隅デハへんちしばト云フサウデスガ

此へんちトハ大隅デドウ云フ意味ニ遣フ言葉デセウカ。

若シ御承知デシタラ御教示ヲ

願ヒマス。

資料4 牧野富太郎葉書 (昭和一四年八(九)月一日付)

【表】

愛媛縣、伊豫郡、

砥部町、岩谷口

日野 富三郎 様

八(九)月一日

⑨ (東京市、板橋区、東大泉町、

五五七番地

牧野 富太郎

〔電話〕 石神井 (シヤクジキ) 一五〇番

※消印 (石神井 / 14・9・1 / 后8―12)

※⑨ (先づ國債で御奉公)

【裏】

早速に御返事を忝なし、誠にあり

がとう存じます。ヘンチは多分大隅の

一般の方言ではないと見えます。

九州方面へは本年十月末頃にタルマギクの花を見に福岡縣まで行くかも知れません。其節は筑後の古處山へも登りッゲを見たいと思つてゐます。けれどマダ確定はしてゐません。若し行く事になれば御知らせを申し上げます。

資料5 牧野富太郎書簡（昭和一〇年九月二五日付）

御ハガキを忝く拝見いたしました。又御惠贈下さいましたピロウ、ソテツ野生地の写真参枚、誠にありがたく拝受いたしました。

其后御変りなく益々清穆ニ御渡りの御事と慶賀の至ニ存じます。私も至つて壮健ですから、乍憚御放神の程を願ひ上げます。

八月下旬には熊本縣方面へ御出動のありし由御愉快なりし事と御察しいたします。獲物も沢山ありましたこと、存じます。

私は本年ハ七月三十日に東京を立ちまして、先づ備中最北の地の採集會へ参り續いて越前東北隅の山奥の地の採集會に臨みました。それが了りますと加賀の白山へ登りました。次で越中の立山へ登り山中で六日間過ごしました。山を下りまして次に黒部谿谷へ行き、其他越中の二、三の地を尋ね、富山市から大阪へ廻り六甲山へ登り、次ニ丹後久美濱に行き、九月六日にやつと無事ニ帰京しました。向山、立山充分に上れましたから、まだ高山へハ登れます。右山から下りまして何の疲れも出ませんでした。

過日廣嶋文理科大学の高木哲雄氏と話し、来年の夏には汽船

一隻を借りて、中國内海の島々、東ハ小豆島から西ハ山口縣の大島までを五日間の豫定で採集しつゝ、乗り廻す計画があります。若し右が実現するやうでしたらどうぞ御参加を願ひ上げおきます。

大隅南部はあこがれの地では非其内行くやうにしたいと存じます。その節は御同行いたす事にしたいと存じ居ります。

御送り下さいました写真はそのピラウ、ソテツ野生の状態がよく出てゐまして喜んでゐます。右厚く御禮を申し上げます次第です。

小生の全集御讀み下され居りますとの御事、誠に二つまらぬもので恥かしく存じます。時々活字の誤植がありますから御注意を願ひ上げます。

時下折角御自愛專一二願ひます。

九月廿五日

牧野富太郎

日野賢臺

玉案下

資料6 牧野富太郎書簡（昭和一四年八月二一日付）

先日は御懇書を下され、嬉しく拝見致しました。残暑となりましてまだまだ中々暑くてたまりませんが、それでも益々御安泰に御渡りの御事を慶賀致します。次に私も至つて壮健で何の障りもありませんから乍他事御安心を願ひます。

今時になりますと昨年の種子ヶ島を思ひ出

します。其際は御目にかゝり、毎日御一緒に採集に出掛け、誠に思出で多き記念となりました。本年も実は出掛けたいと期してゐましたけれどもいろいろの用事二妨げられまして、とうとう実行が出来ませんで実二残念でたまりません。来年ハ何んとかして七月始め頃に同島へ参りたいと希望してゐます。其節は是非とも御出會ひしたいと楽しんでゐます。今年の十月頃に何んとか繰り合せて福岡縣下のダルマガクを採集に行きたいと思つてゐます。若し愈々決行の場合は預じめ御しらせ申上げませう。若し御都合が宜しければ御出掛け下さい。序に秋月町へ参り古處山へ登りツゲの林を見分したいと思つてゐます。(昨年帰り途に一度登りはしましたけれど)

先ハ右御返事まで申上げました。時下折角御自愛專一二祈り上げます。

昭和十四年八月十一日

牧野富太郎

日野賢臺

玉机下

表1 日野富三郎採集植物標本一覧

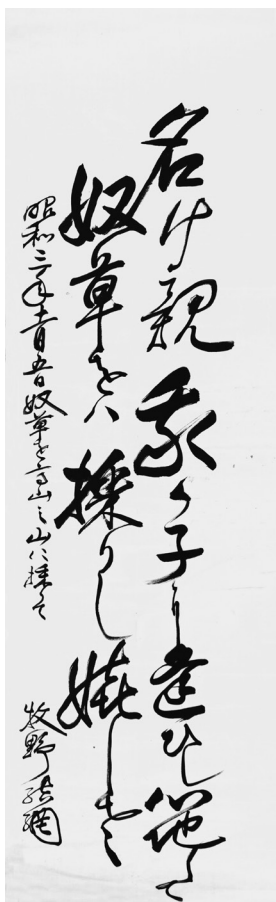
番号	年代	和名	採集地	採集地現 在 市町村 名	所蔵	備考
1	大正5年	タニソバ	桜島中岳 頂上	鹿児島県	鹿児島県立博物館	資料番号なし
2	大正6年4月	ヤクタネゴヨウ（アマミ ゴヨウ）	鹿児島県 種子島	鹿児島県	鹿児島大学総合研 究博物館	ラベル表記：鹿児島高等農林学 校植物学標本、森田康夫と共同 採集、管理番号：K A G 172248
3	大正6年4月	ヤクタネゴヨウ（アマミ ゴヨウ）	種子島種 子島農林 学校内	鹿児島県 西表市	鹿児島大学総合研 究博物館	ラベル表記：鹿児島高等農林学 校植物学標本、森田康夫と 共同採集、管理番号：K A G 172249
4	大正7年3月22日	シャリンバイ（オキナワ シャリンバイ）	沖縄県名 護公園内	沖縄県名 護市	鹿児島大学総合研 究博物館	ラベル表記：鹿児島高等農林学 校植物学標本、管理番号： K A G 143869
5	大正7年3月24日	アオバナハイノキ（エラ ブハイノキ）	沖縄県国 頭郡辺野 喜	沖縄県国 頭郡国頭 村	鹿児島大学総合研 究博物館	ラベル表記：鹿児島高等農林学 校植物学標本、管理番号： K A G 165085
6	大正7年3月24日	アマシバ（オオバナシロ バイ、タイワンハイノ キ）	沖縄県国 頭郡辺野 喜	沖縄県国 頭郡国頭 村	鹿児島大学総合研 究博物館	ラベル表記：鹿児島高等農林学 校植物学標本、管理番号： K A G 164929
7	大正7年3月24日	クロバイ（トチシバ、ソ メシバ、ハイノキ）	沖縄県国 頭郡辺野 喜	沖縄県国 頭郡国頭 村	鹿児島大学総合研 究博物館	ラベル表記：鹿児島高等農林学 校植物学標本、管理番号： K A G 165199
8	大正7年3月24日	ヒメサザンカ（リュウキュ ウツバキ）	沖縄県国 頭郡辺野 喜	沖縄県国 頭郡国頭 村	鹿児島大学総合研 究博物館	ラベル表記：鹿児島高等農林学 校植物学標本、管理番号： K A G 165449
9	大正7年3月24日	リュウキュウアリドオシ （オキナワジュズネノ キ）	沖縄県国 頭郡辺野 喜	沖縄県国 頭郡国頭 村	鹿児島大学総合研 究博物館	ラベル表記：鹿児島高等農林学 校植物学標本、管理番号： K A G 145883
10	大正7年3月24日	リュウキュウハイノキ	沖縄県国 頭郡辺野 喜	沖縄県国 頭郡国頭 村	鹿児島大学総合研 究博物館	ラベル表記：鹿児島高等農林学 校植物学標本、管理番号： K A G 165166
11	大正7年5月10日	アカシデ	霧島山	鹿児島県 /宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000112001s
12	大正7年5月10日	イヌシデ	霧島山	鹿児島県 /宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000113301s
13	大正7年5月10日	シャシャンボ（ナガバシャ ンボ）	霧島山	鹿児島県 /宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000812001s
14	大正7年5月10日	ヤマハンノキ	霧島山	鹿児島県 /宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000028301s
15	大正7年7月24日	コバノガマズミ（キリシ マコバノガマズミ）	霧島山	鹿児島県 /宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000839901s
16	大正7年7月24日	ノリウツギ	霧島山	鹿児島県 /宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000264201s
17	大正7年7月24日	ミミズバイ	霧島山	鹿児島県 /宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000779901s
18	大正7年7月26日	アオハダ（ケナシアオハ ダ）	霧島山	鹿児島県 /宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000283301s
19	大正7年7月26日	アカガシ	霧島山	鹿児島県 /宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000931301s
20	大正7年7月26日	イソノキ	霧島山	鹿児島県 /宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000430901s
21	大正7年7月26日	イモノキ（タカノツメ）	霧島山	鹿児島県 /宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000002201s
22	大正7年7月26日	キリシマミズキ	霧島山	鹿児島県 /宮崎県	鹿児島県立博物館	管理番号：K A P 0000151101s
23	大正7年7月26日	クロツル	霧島山	鹿児島県 /宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000777401s
24	大正7年7月26日	コツクパネウツギ	霧島山大 浪池	鹿児島県 霧島市	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000840001s
25	大正7年7月26日	シャシャンボ（ナガバシャ ンボ）	霧島山	鹿児島県 /宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000812101s
26	大正7年7月26日	シラキ	霧島山	鹿児島県 /宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000904101s
27	大正7年7月26日	シロダモ	霧島山	鹿児島県 /宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000362201s

28	大正7年7月26日	シロモジ	霧島山	鹿児島県 宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000315601s
29	大正7年7月26日	ツリバナ	霧島山	鹿児島県 宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000777301s
30	大正7年7月26日	ハイノキ	霧島山	鹿児島県 宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000779401s
31	大正7年7月26日	ヒメズリハ	霧島山	鹿児島県 宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0083114101s
32	大正7年7月26日	ヒカゲツツジ	霧島山	鹿児島県 宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000811901s
33	大正7年7月26日	ブナ	霧島山	鹿児島県 宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000929301s
34	大正7年7月26日	マンサク	霧島山大 浪池	鹿児島県 霧島市	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000248301s
35	大正7年7月26日	ヤマツツジ	霧島山	鹿児島県 宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000812201s
36	大正7年7月26日	リョウブ	霧島山	鹿児島県 宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000141601s
37	大正7年7月27日	アワブキ	霧島山	鹿児島県 宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000343901s
38	大正7年7月27日	イヌツゲ	霧島山	鹿児島県 宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000280201s
39	大正7年7月27日	カクレミノ	霧島山	鹿児島県 宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000171101s
40	大正7年7月27日	サワアジサイ	霧島山	鹿児島県 宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000264001s
41	大正7年7月27日	ソヨゴ	霧島山	鹿児島県 宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000284201s
42	大正7年7月27日	ナワシロイチゴ	霧島山	鹿児島県 宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000756801s
43	大正7年7月27日	ホソバタブ（アオガシ）	霧島山	鹿児島県 宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000334301s
44	大正7年7月27日	ヤブムラサキ	霧島山	鹿児島県 宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000084101s
45	大正10年4月	ツクシアケボノツツジ	鹿児島県 肝属郡高 隈村	鹿児島県 鹿屋市下 高隈町	京都大学総合博物 館	ラベル表記：HERB. UNIVERSITA TIS IMPERIALIS KYOTOENSIS、 受入番号：K Y O 00106658
46	大正10年4月	ツクシアケボノツツジ	鹿児島県 肝属郡高 隈村	鹿児島県 鹿屋市下 高隈町	国立科学博物館	標本登録番号：T N S - V S - 38762
47	大正11年7月22日	ヨモギ	野間岳	鹿児島県 南さつま 市	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000047001s
48	昭和3年7月24日	ヤブイバラ	牧園町	鹿児島県 霧島市	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000963101s
49	昭和3年7月26日	アカシデ	霧島山	鹿児島県 宮崎県	鹿児島県立博物館	資料番号：K A P 0000112101s
50	昭和4年5月5日	ヨウラクツツジ	鹿児島県 大隈木ヨ シ岳	鹿児島県 肝属郡肝 付町甫与 志岳	東京都立大学牧野 標本館	ラベル表記：牧野標本館腊葉、 標本番号：M A K 75204
51		オキナワクルマバナ	奄美大島 名瀬	鹿児島県 奄美市	鹿児島大学総合研 究博物館	ラベル表記：鹿児島大学農学 部植物標本、管理番号：K A G 017712

※1・11～44・47～49については、以下のとおり。
 著者名：鹿児島県立博物館
 データベース名：収蔵資料データベース
 URL：https://jmapps.ne.jp/kagoshima_pref_museum/

※46については、以下のとおり。
 著者名：国立科学博物館
 データベース名：標本・資料統合データベース
 URL：https://db.kahaku.go.jp/webmuseum/col_b1_01/TNS-VS-38762

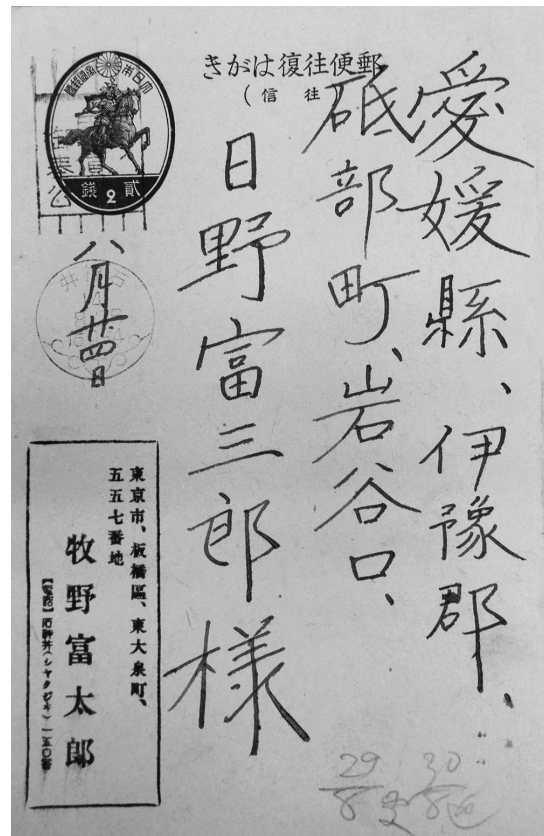
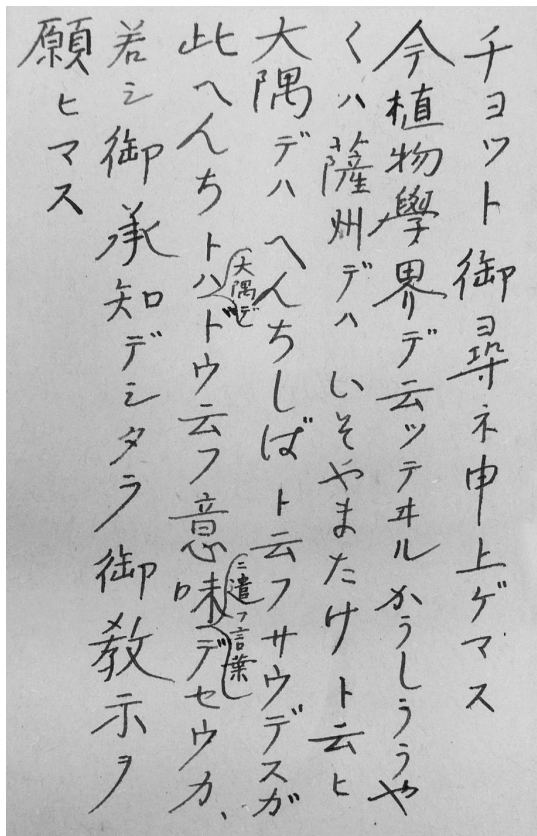
※2～10・51については、以下のとおり。
 著者名：鹿児島大学総合研究博物館
 データベース名：植物標本データベース
 URL：https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/hyouthonsitu.html



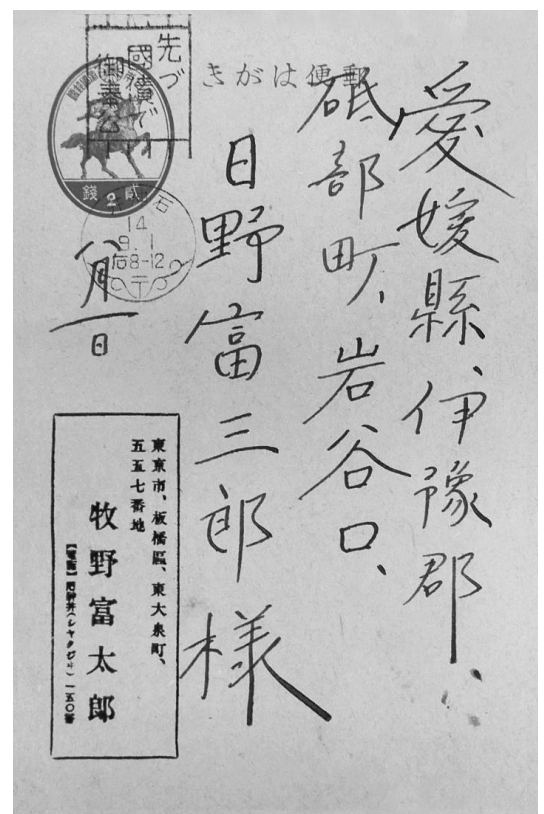
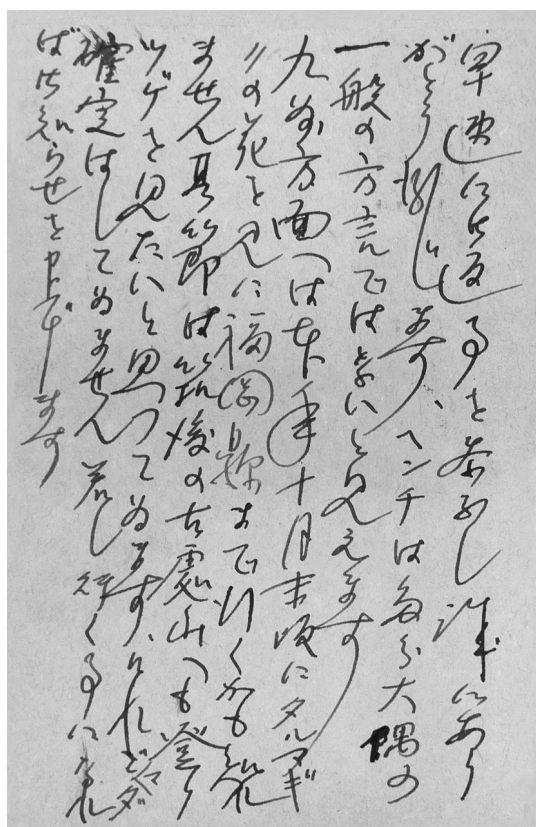
資料1 「牧野富太郎書」(昭和3年11月5日付) 個人蔵



資料2 牧野富太郎と日野富三郎写真 個人蔵



資料3 「牧野富太郎葉書（昭和14年8月24日付）」 個人蔵



資料4 「牧野富太郎葉書（昭和14年8〈9〉月1日付）」個人蔵

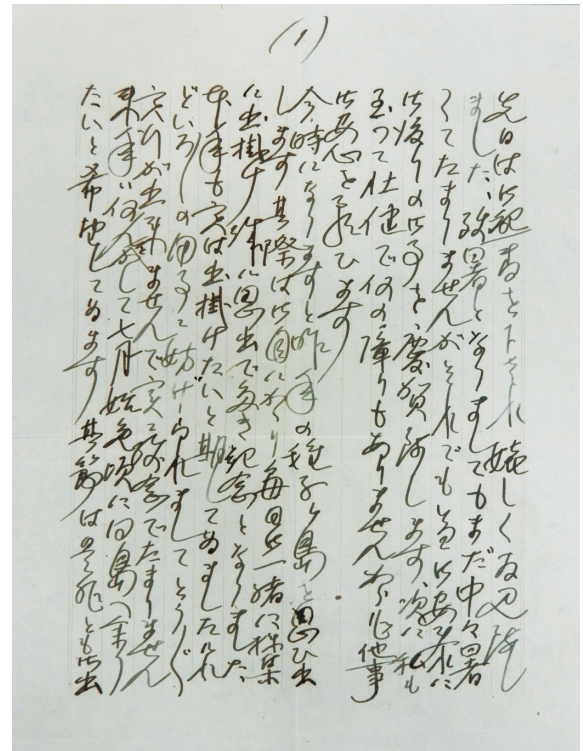
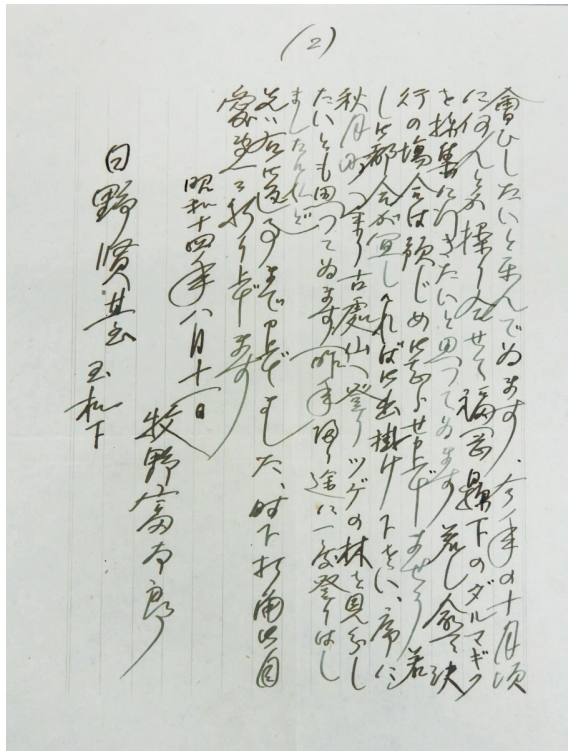
山を下りまして次に里都谷へ行き其他途中の二三の地より富山市あり大坂へ廻り六甲山へ登り次いで舟を久美河に下り九月六日にやつと母よりこの所着しめた向山立山をへ上れしはかうまだ高山の空はまろやな山から下りしとき何の樹れもあませへりした
 隅田川嶋文理神大寺の高木松雄もとてし早中のはは汽船一隻と借りて中国の海の島々東北の豆島から西山の島へあてとあり居り隣定を採集しつゝ乗る廻を計畫ありきす
 是れが又改まるやうにしたりどうもをげをたかきふより
 す
 大隅南都はあつたれので是れ其の行くやうにしたいと思ひます其節は如何にいたすまいかしらねしはうま
 す

SHIHAUME

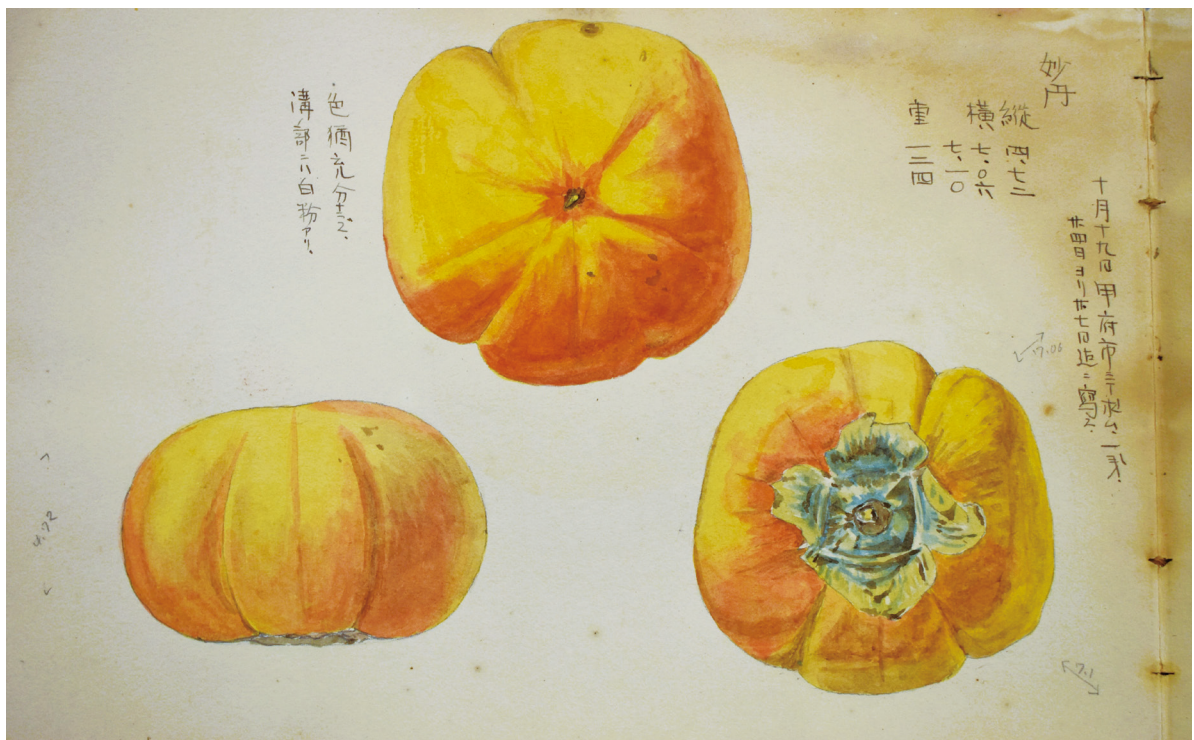
(7) No. 1
 片かきとあるを名に作し、また市街下をいま
 したビラントラ野せ地の宝泉寺故址にあがたうな
 受いたしめた。
 其地にありたる古蹟は、板のりやうとて、
 のまじりあす。私共まつては、他をさめらへ、怪け放
 れ、
 の程とるれいよ。あす。
 月下句には熊布縣戸内（は出動のありし内に愉快な
 りし）といふおかしい事あり、獲物も沢山ありしとこ
 とつゝあす。
 私はあす七月三十日に東京と立ちどまり、こころ満ち、
 他の採集（あす）はいて、越前東北隅の山奥の他の採集
 所へ臨み出した。そればかりでなく、加賀の白山に登りま
 した。次で越前の立山に登り、山中で六日逗留しました。

何事ト云ふした安んばそのじうウソテツクセの状
 態より出ておぼしめてたゞなるます ぬをくはれと
 上り ます 次分ります
 せいの金葉は深み下され ます ますとのけり、4こ ます
 ので、物おしとけり ます 時、法家の徳植がきり ます
 わりに注ぎあふさしい上り ます
 中下角は自らきり ます なるます
 九り共あり
 牧野高石良
 白野 賢其
 玉葉下

資料5 「牧野富太郎書簡（昭和10年9月25日付）」
個人蔵



資料6 「牧野富太郎書簡（昭和14年8月11日付）」 個人蔵



資料7 日野富三郎の植物画 個人蔵



資料8 「第二回植物採集及び實地指導會」写真（昭和8年8月） 個人蔵

